

諸富隆教授 主要履歴・業績

I. 経歴・社会活動

学歴

- 1965年 3 月 北海道大学教育学部教育学科卒業
- 1968年 3 月 北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻修士課程修了（教育学修士の学位授与）
- 1970年 7 月 北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻博士課程中退

職歴

- 1970年 7 月 岩手大学教育学部助手
- 1972年 4 月 岩手大学教育学部講師
- 1974年 4 月 岩手大学教育学部助教授
- 1979年 9 月 キール大学コミュニケーション&神経科学研究所（イギリス、所長：D.M マッカイ）在外研究員（1981年 1 月まで）
- 1984年 4 月 岩手大学教育学部教授
- 1987年 4 月 岩手大学評議員（1992年 4 月まで）
- 1992年 5 月 北海道大学教育学部教授
- 1995年10月 北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター長併任（1999年 9 月まで）
- 1997年 4 月 北海道大学評議員（2002年 3 月まで）
- 2000年 4 月 北海道大学大学院教育学研究科教授
- 2000年 4 月 北海道大学大学院教育学研究科長・教育学部長（2002年 3 月まで）
- 2002年 4 月 作新学院大学人間文化学部学部長（2006年 3 月まで）
- 2002年 4 月 作新学院大学人間文化学部教授（現在に至る）
- 2003年 4 月 北海道大学名誉教授
- 2003年 4 月 作新学院大学学長（2008年 6 月まで）
- 2005年 4 月 作新学院大学女子短期大学部学長（2008年 6 月まで）

学会及び社会における活動

- 1986年 4 月 日本生理心理学会運営委員（現評議員）（現在に至る）
- 1987年 4 月 日本生理心理学会編集委員（1993年 3 月まで）
- 1995年 4 月 日本脳波筋電図学会（現日本臨床神経生理学会）評議員（1998年 3 月まで）
- 1996年 4 月 日本生理心理学会常任運営委員（現理事）

1996年10月	北海道心理学会研究奨励賞選考委員長（1998年10月まで）
1997年 7 月	認知神経科学会評議員（現在に至る）
1998年 6 月	日本学術振興会特別研究員等審査委員会専門委員（2000年 5 月まで）
1998年10月	北海道心理学会会長（2000年10月まで）
1999年 9 月	第37回日本特殊教育学会学術大会大会長
2000年 1 月	日本生理心理学会優秀論文賞選考委員（2001年11月まで）
2000年 6 月	第18回日本生理心理学会学術大会大会長
2000年 6 月	日本生理心理学会編集委員（2006年 5 月まで）
2001年 7 月	社団法人日本心理学会理事及び議員（2003年 6 月まで）
2001年10月	日本臨床神経生理学会（旧日本脳波筋電図学会）評議員（現在に至る）
2003年 4 月	社団法人栃木県経済同友会相談役、産業活性化特別委員
2003年 4 月	財団法人とちぎ総合研究機構評議員（2005年 3 月まで）
2003年 4 月	財団法人栃木県産業振興センタープランネット連携推進会議委員
2003年 4 月	栃木大学連携サテライトオフィス運営協議会委員
2003年 4 月	栃木県産業協議会委員
2003年 4 月	栃木県高等教育連絡協議会委員（2005年 3 月まで）
2003年 4 月	日本私立大学協会評議員（2003年度?2007年度）
2004年 4 月	宇都宮大学経営協議会委員（2006年 3 月まで）
2004年 6 月	宇都宮大学学長選考会議委員（2006年 3 月まで）
2004年 4 月	栃木県医師会診療情報提供推進委員会委員、自浄作用活性会員会委員 （2008年 3 月まで）
2004年 9 月	次世代モビリティ産業集積戦略会議議長（2006年 3 月まで）
2004年11月	日本臨床神経生理学会奨励論文賞審査委員（2005年11月まで）
2004年11月	宇都宮商工会議所顧問
2005年 4 月	大学コンソーシアムとちぎ副理事長
2005年 4 月	社）栃木県経済同友会産業政策委員会委員、社会貢献活動推進委員会委員 （2009年 3 月まで）
2005年 6 月	とちぎ観光資源活用研究会座長（現在に至る）
2005年 7 月	宇都宮ロータリークラブ（現在に至る）
2006年 5 月	関東私立短期大学協会理事（2006年度、2007年度）
2006年 7 月	栃木SC研究会
2007年 4 月	清原地区地域振興推進協議会顧問
2009年 4 月	栃木県経済同友会社会問題委員会（現在に至る）

Ⅱ. 主要業績

著書

1. Habituation, generalization and dishabituation of event-related potentials using obsolete Chinese kanji. (共著) 1996年6月 In Ogura C, Koga Y, Shimokochi M (eds): Recent advances in event-related brain potential research. Elsevier, Amsterdam
2. Heart rate response transfer to and paradoxical response in REM sleep (共著) 1996年6月 In Ogura C, Koga Y, Shimokochi M (eds): Recent advances in event-related brain potential research. Elsevier, Amsterdam
3. 事象関連電位 (共著) 1998年5月 宮田洋(監修), 新生理心理学第1巻 生理心理学の基礎, 北大路書房, pp.104-123

学術論文

1. 本音を語る－事象関連電位: 知覚. (単著) 1991年, 生理心理学と精神生理学, Vol.9, No.2, pp.92-94.
2. 視認知過程の分析方法について. 1993年. 特殊教育学研究, (共著) Vol.30, pp.65-66.
3. 睡眠時における慣れの長期効果: Truly Random Controlを用いた予備的検討. (共著) 1995年, 北海道大学教育学部紀要, 67号, pp.249-257.
4. 発達障害児の注意・認知障害と事象関連電位. (共著) 1996年. 特殊教育学研究, Vol.33, pp.115-116.
5. 脳波・事象関連電位による発達障害の認知情報処理過程の分析. (共著). 特殊教育学研究, Vol.34, pp.183-185.
6. 事象関連電位による認知・飯能生成機構の分析－Go/Nogo課題におけるGo試行の確率操作による検討－. (共著) 1999年, 第4回J S M E ロボメカシンポジウム講演論文集, pp.C105-108.
7. ある中学生男児における怒りの生起因. (共著) 1999年, 乳幼児療育研究, 第12号, pp.117-123.
8. 自閉症者における不適応行動の生起要因. (共著) 1999年, 乳幼児療育研究, 第12号, pp.104-111.
9. 発達性失読児への平仮名の指導の試み. (共著) 1999年, 乳幼児療育研究, 第12号, pp.112-116.
10. 状況認知に困難を示す女児の対人関係スキルの獲得. (共著) 1999年, 乳幼児療育研究, 第12号, pp.124-129.

11. 脳梁欠損をもつ読みが苦手な小学生男児の事例、(共著) 1999年、乳幼児療育研究、第12号、pp.97-103.
12. 読字障害－仮名非単語音読困難のメカニズム－(共著) 2000年、乳幼児療育研究、第13号、pp.82-88.
13. 発達障害児の注意・認知機能の生理心理学的評価とその指導。(共著) 2000年、特殊教育学研究、Vol.37,pp.188-190.
14. 表情に注意を向けていない時の表情処理に関する検討：事象関連電位を用いて。(共著) 2001年、電子情報通信学会技術研究報告書、Vol.100,No.612,pp23-30.
15. 顔認知における顔の角度の効果：ERPを指標にして。(共著) 電子情報通信学会技術研究報告書、Vol.100,No.612,pp.39-46.
16. 発達障害児の注意・認知機能の生理心理学的評価とその指導(その2)。(共著) 2001年、特殊教育学研究、Vol.38. .p p.188-190.
17. Asymmetries of near and far space in early location-based selection:evidence by event-related brain potentials. (共著). 2002. Proceedings of the Second Asian Conference on Vision,p.2.
18. A VEP demonstration of neural processes on the motion-defined figure. (共著) 2002年、Proceedings of the Second Asian Conference on Vision,p.15.
19. 事象関連電位及び光脳血流反応を指標とするヒトの表情認知の研究。(共著) 2004年、平成14年度－15年度科学研究費補助金(基盤研究C－2)研究成果報告書,
20. Alteration of interocular suppression following monocular homogeneous stimulus. (共著) 2007年、Psychologia,Vol.50,pp.147-153.
21. 視知覚“その認知構造と推移について”－予期を手がかりとする解明の試み－(単著) 1968年3月 北海道大学教育学部紀要, 16巻, pp.121-126
22. Enhancement of evoked responses to flashes and its correlation with off responses to pre-exposed light stimulation. (共著) 1975年2月 Vision Research, Vol.15, No.2, 267-272
23. 光刺激の消失にともなう視覚誘発反応(off 反応)の分析－off 反応とそれに後続する視覚誘発反応(on 反応)との相関－(単著) 1975年3月 岩手大学教育学部研年報, 35巻, pp.51-72
24. Enhancement of averaged evoked responses to brief flashes after offset of preexposed light stimulation: A critical moment. (共著) 1975年11月 Vision Research, Vol.15, vol.11, pp.1213-1216
25. 検査閃光刺激への視覚誘発反応に及ぼす先行光パターン刺激の効果。(単著) 1978年3月 菊池一美・畠山豊吉両教授退官記念論文集, 岩手大学教育学部教育学科

- 編, pp.185-193
26. Selective reduction in visibility of a posttarget by an identical pretarget masked by noise. (単著) 1981年12月 Perception&Psychophysics, Vol.30, No.6, 594-598
 27. Enhancement of visual evoked potentials occurred in the recovery process. (単著) 1983年11月 Electroencephalography and clinical Neurophysiology, Vol.56, No.1, p.59
 28. VEPsに及ぼす刺激の時間的・空間的要因 (単著) 1985年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.3, pp. 65-69
 29. 上下左右の半側視野誘導のパターン出現, 消失, 反転視覚誘発電位. (単著) 1986年3月 臨床脳波, Vol.28, No.3, pp.171-181 (吉井直三郎編集)
 30. Evoked potential correlates of kanji processing : the interaction between meaning and configuration. (共著) 1986年10月 Proceedings of the XXth Congress of the International Association of Logopedics andPhoniatrics, pp.588-589.
 31. 脳波・誘発電位によるパタン知覚の時間的・空間的構造とその変容過程の研究. (単著) 1987年3月 昭和61年度科学研究費補助金研究成果報告書, pp.1-40
 32. 輪郭の知覚と視覚誘発電位. (単著) 1988年8月 臨床脳波, Vol.30, No.8, pp.487-495
 33. 上下視野パタン刺激への選択的注意が事象関連脳電位に及ぼす効果 (共著) 1990年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.8, No.2, pp.81-93
 34. Visual evoked potentials elicited by subjective contour figures. (共著) 1991年12月 Scandinavian Journal of Psychology, Vol.32, No.4, pp.352-357
 35. 視知覚と視覚誘発電位 (I) (単著) 1992年3月 北海道大学教育学部紀要, 57巻, pp.29-116
 36. 血友病性出血と気象変動－血友病性関節内出血への気温変動の影響－ (共著) 1992年4月 特殊教育研究, 30巻, No.1, pp.35-42
 37. プランニングにおける α 波パワーの半球間非対称性：語想起と構成活動 (共著) 1992年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.10, No.2, pp.87-90
 38. 事象関連電位におけるプライミング課題繰り返しの効果. (共著) 1993年6月 生理心理学と精神生理学, Vol.11, No.1, pp.23-29
 39. 対連合課題における事象関連電位後期成分. (共著) 1993年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.11, No.2, pp.59-67
 40. 終夜睡眠における行動的覚醒の左右非対称性. (共著) 1994年6月 生理心理学

と精神生理学, Vol.12, No.1, pp.39-44

41. ERP (脳事象関連電位) の基礎と臨床: 主観的輪郭及び顔の知覚と視覚誘発電位 (VEP) (単著) 1994年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.12, No.2, pp.111-112
42. Sleep depth and classical conditioning during sleep: A preliminary study. (共著) 1994年12月 Psychologia, Vol.37, No.4, pp.241-247
43. Event-related potentials and kanji processing: The interaction between configuration and meaning. (共著) 1995年3月 Bulletin of the Faculty of Education Hokkaido University, Vol.67, pp.39-60
44. 視知覚と視覚誘発電位 (II): 視覚情報の時間的統合 (単著) 1995年3月 北海道大学教育学部紀要, 67巻, pp.195-217
45. Classical conditioning during human NREM sleep and response transfer to wakefulness (共著) 1996年1月 Sleep, Vol.19, No.1, pp.72-74
46. Face-related potentials evoked by an ambiguous figure. (単著) 1996年4月 Electroencephalography and Clinical Neurophysiology, Vol.98, No.4, pp.45-46
47. 3刺激オッドボールにおける標的検出課題の有無が新奇刺激のP300に及ぼす影響. (共著) 1996年6月 生理心理学と精神生理学, Vol.14, No.1, pp.1-7
48. 重症例に対するスイッチ・デバイスを用いた作業療法の効果 (第2報). (共著) 1997年2月 作業療法, 17巻, pp.35-44
49. 発達障害児の注意・認知機能の診断、評価とその指導に関する実験的、実践的研究 (共著) 1997年3月 1996年科学研究費補助金 (基盤研究B (1)) 研究成果報告書
50. 音韻プライミング課題時の事象関連脳電位: プライムに対する課題性の検討 (共著) 1997年10月 北海道心理学研究, Vol.20, pp.29-50
51. Reversed discriminatory responses of heart rate during human REM sleep (共著) 1997年11月 Sleep, Vol.20, No.11, pp.942-947
52. 2刺激及び3刺激オッドボールパラダイムにおける精神遅滞者の事象関連電位 (共著) 1998年6月 生理心理学と精神生理学, Vol.16, No.1, pp.25-32
53. Global stereopsis における奥行きおよび形態注意に関わる事象関連脳電位成分 (共著) 1999年4月 3D映像, Vol.13, No.1, pp.30-35
54. Integrated neural representation of sound and temporal features in human auditory sensory memory: an event-related potential study. (共著) 1999年10月 Neuroscience Letters, Vol.274, No.3, pp.207-210
55. 顔の知覚と事象関連電位 (単著) 2000年2月 Clinical Neuroscience, Vol.18, No.2, pp. 44-46
56. 3音オッドボール課題でのP300に及ぼす注意の効果 (共著) 2000年3月 生理心

- 理学と精神生理学, Vol.18, No.1, pp.53-61
57. ERP correlates to initial perceptual processing of native and foreign language characters in a habituation paradigm (共著) 2000年4月 Japanese Journal of Physiological Psychology and Psychophysiology, Vol.18, No.1, pp.45-52
 58. Feature-specific priming effects upon short duration binocular rivalry. (共著) 2000年6月 Psychologia, Vol.43, No.2, pp.123-134
 59. Global motion知覚における統合処理を反映するVEP成分 (共著) 2000年7月 認知神経科学, Vol.2, No.1, pp.53-55
 60. 様々な視覚刺激で誘発される前頭P2と後頭P2の検討 (共著) 2000年7月 認知神経科学, Vol.2, No.1, pp.66-68
 61. 漢字認知に伴う形態レベルと意味レベルにおけるプライミング効果：事象関連電位(ERP)による検討. (共著) 2000年12月 生理心理学と精神生理学, Vol.18, No.3, pp.231-246
 62. 北海道壱藤学園における虚弱女子生徒(小学・中学・高校)の養護学校教育に関する史的考察(1)－戦後初の養護学校後期中等教育(高等部)校の実証的研究(前編)－ (共著) 2000年9月 障害児問題史研究紀要第39号 pp.19-36
 63. 顔電位再考：様々な視覚刺激に対する事象関連脳電位 (共著) 2001年1月 電子情報通信学会技術研究報告. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎 100 (612), 61-68
 64. 事象関連脳電位を指標とした顔認識過程の分析－順応パラダイムによる検討－ (共著) 2001年2月 電子情報通信学会技術研究報告書, Vol.100, No.612, pp.53-60
 65. 手の運動を反応としたgap effectに関する研究 (共著) 2001年3月 認知神経科学, Vol.3, No.1, pp.37-40
 66. 漢字の正立像・倒立像の初期知覚処理－慣れパラダイムを用いた事象関連脳電位による検討－ (共著) 2001年3月 認知神経科学, Vol.3, No.1, pp.41-44
 67. 発達障害児の注意・認知機能の診断, 評価とその指導に関する実験的, 実践的研究 (共著) 2001年3月 1997年度～12年度科学研究補助金(基礎研究(A)(1))研究成果報告書, pp.1～288
 68. Event-related brain potentials during selective attention to depth and form in global stereopsis (共著) 2001年4月 Vision Research, Vol.41, No.10-11, pp.1379-1388
 69. 顔知覚と視覚誘発電位(1) (単著) 2001年4月 臨床脳波, Vol.43, No.4, pp.255-262
 70. 顔知覚と視覚誘発電位(2) (共著) 2001年6月 臨床脳波, Vol.43, No.6,

pp.391-399

71. 北海道の知的障害児教育実践史研究序説：その源流：奥田三郎（1903-1983）と小金井治療教育所（小金井学園）（共著） 2001年6月 北海道大学大学院教育学研究科紀要 83, 25-116
72. Color-specific filtering of rival binocular inputs induced by priming（共著） 2002年5月 Japanese Psychological Research 2002, Vol.44, No.2, pp.57-65
73. Attending to a location in three -dimensional space modulates early ERPs（共著） 2003年3月 Cognitive Brain Research , Vol.17 2003, pp.273-285
74. 注意欠陥・多動性障害児の反応抑制の中枢活動 Continuous Performance TestにおけるNOGO電位を用いた検討 2003年9月 臨床脳波, Vol.45, No.9, pp.579-584
75. Face-specific N170 component is modulated by facial expressional change（共著） 2004年1月 NeuroReport, Vol.15, No.5, pp.911-914
76. AD/HD児における反応抑制とエラー認知機能の評価 CPT課題におけるERPを指標として 2004年4月 生理心理学と精神生理学, Vol.22巻, No.1, pp.45-57【エラー関連陰性電位を使用した新たな精神生理学研究の展開】特集号
77. ウィスコンシン・カード・ソーティング・テスト遂行時の事象関連電位の検討（共著） 2005年3月 臨床神経生理学 Vol.33, No.3, pp.151-156
78. 北海道新塾藤学園における虚弱女子生徒（小学・中学・高校）の養護学校教育に関する史的考察－戦後初の養護学校後期中等教育（高等部）校の実証的研究（後編）－（共著） 2005年6月 精神薄弱問題史研究会 障害者問題史研究紀要 第40号 pp.53-77
79. 脳波・誘発電位研究の過去・現在・未来：私達の視知覚研究を中心として（単著） 2005年8月 生理心理学と精神生理学, Vol.23, No.2, pp.61-62
80. 表情認知に特異的に関連する電位成分（共著） 2006年8月 臨床脳波, Vol.48, No.8, pp.455-462
81. 日本発達障害支援システム学会2005年度研究大会 記念講演 脳科学と発達障害--生理心理学的アプローチによる最前線（単著） 2006年3月 発達障害支援システム学研究 5（2）, 23-38
82. 統計的識別による聴覚誘発電位の特徴分析（共著） 2008年1月 電子情報通信学会技術研究報告. NC, ニューロコンピューティング Vol.107, No.413（20080108） pp. 43-48
83. 視知覚研究における視覚誘発電位の有効性について（単著） 2008年4月 認知神経科学 Vol.10, No.1, pp.68-76
84. ランダムプローブ法と談話理解の脳内機構（共著） 2008年9月 臨床脳波,

Vol.50, No.9, pp.524-530

85. offset AEPとonset AEPの発達的变化 (共著) 2008年9月 臨床脳波, Vol.50, No.9, pp.517-523
86. 指文字学習における認知的変化についての3刺激oddball課題を用いた検討 (共著) 2008年3月 作新学院大学人間文化学部紀要, Vol.6,21-32
87. 視知覚研究における視覚誘発電位の有効性について (第12回認知神経科学会) (単著) 2008年4月 認知神経科学 10 (1), 68-76
88. 目と口の部分呈示に対する笑顔の強さの評価について (共著) 2009年3月 作新学院大学人間文化学部紀要, Vol.7,61-79
89. Perceptual Experience and Temporal Two Stages in Flash Suppression for Contour Rivalry (共著) 2009年3月 Psychologia, Vol.52, No.1, pp.25-40
90. 聴覚事象関連電位への神経デコーディングの適用 -統計的識別手法の比較と脳波分析方法としての評価- (共著) 2009年9月 基礎心理学研究, Vol.28, No.1